

主催事業

- 7月 おしゃべりサロン
 9月 敬老祝賀会
 10月 ハイキング
 11月 県外研修会
 1月 一人暮らし高齢者友愛訪問
 3月 学習会

笠間市社会福祉協議会**稲田支部****みかげ会****第11号**

平成30年7月30日発行

発行 笠間市社協稲田支部
 支部長 長谷川 泉
 編集 稲田支部広報委員会
 印刷 大塩企画

**社協稲田支部総会開催!****平成三十年度事業がスタート、役員は一部交代**

社会福祉協議会稲田支部総会が五月十九日(土)午前十時から、稲田公民館で開催されました。

役員の任期は二年で、本年度は改選の年度ではないのですが、区長と子ども会連合会会長の交代により、運営委員の一部が交代となりました。詳しくは次ページの役員一覧表をご覧ください。

支部長からは、「地域の課題についてできることをやっていく」とのあいさつがあり、この方針のもと、平成二十九年事業報告・決算報告、平成三十年度事業計画・予算案についての審議があり、承認されました。

本年度事業として、広報紙十一号・十二号発行、おしゃべりサロン(七月十四日実施)、敬老祝賀会、ハイキング(歩く会)、県外研修会、一人暮らし高齢者友愛訪問、学習会を予定しています。今年も地域福祉の核として、地域の生き生きふれあいを目的に事業がスタートしました。

平成二十九年事業報告

学習会

「鍋島翁頌徳碑」について

鍋島彦七郎翁の頌徳碑が稲田駅前広場に建っています。

この「鍋島翁頌徳碑」について、「稲田花崗石石材業の成立・発展に尽くした鍋島彦七郎翁を讃える碑文について」と題し、三月十七日（土）稲田公民館で、笠間市文化財保護審議委員 矢口圭二先生より講話がありました。

漢文で書かれた碑文を書き下し文に直し、難しい用語を平易に説明しながら、鍋島翁の生い立ち、人柄、業績等について話をしていただきました。

さらに、貴重な資料を用意して、明治期における稲田石材業の歴史や状況についても教えていただき、大変勉強になりました。

この講話により、稲田に住んでいることがとても誇らしく感じられた一日となりました。そして、翁は、稲田石材業の父であるばかりでなく、稲田の発展、近代日本の発展に大きく寄与した人物として後世まで語り継ぎたいという思いも新たにしました。

【碑文の要約】

翁は広島県尾道市に生まれ、若くして石匠となる。才能と知識にあふれ、将来を見通して石材業を起し、明治二十九年稲田でみかげ石を採掘する。

稲田は道が狭く谷も深い。輸送は困難であった。翁は村人を雇い、荒地地を拓き、トロッコ軌道を築いた。輸送の便は大いに上がった。稲田石は、瀬戸内産と比べても、美しく品質が良い。しかも価格は安い。「稲田みかげ石」の名はますます高まった。

翁はまた、駅の土地を提供し、稲田駅が開設された。石材輸送の便だけでなく住民もまた恩恵を受けた。公益に尽くした人物である。



学習会



鍋島翁頌徳碑と碑文



石の百年館

稲田駅前には鍋島翁頌徳碑のほかにも、稲田石材業の歴史と稲田みかげ石に関連する展示資料を見学できる「石の百年館」があります。一度見学されてみてはいかがでしょうか。

支部役員

役職	氏名	現職等
支部長	長谷川 泉	前公民館長
副支部長	高橋 一夫	公民館長
副支部長	宮崎 守	第110区長
会計	足立 登	第97区長・公民館主事
監事	鈴木 正平	第95区長
監事	柳橋 好和	第99区長
広報委員	梅原 守	民生委員・児童委員
広報委員	中野 治美	公民館運営審議委員
広報委員	山口 由美	学識経験者
運営委員	長瀬喜久夫	第88区長
運営委員	市原 正美	第89区長
運営委員	磯 庄市	第90区長
運営委員	稲野辺頼英	第91区長
運営委員	五十嵐久次	第92区長
運営委員	三村 則子	第93区長
運営委員	鈴木 隆	第94区長
運営委員	山口 廣	第96区長
運営委員	荒木 明	第98区長
運営委員	中野 勝夫	第100区長
運営委員	潮田 浩	民生委員・児童委員
運営委員	稲野辺直子	民生委員・児童委員
運営委員	奥村 雄治	民生委員・児童委員
運営委員	椎名 芳男	民生委員・児童委員
運営委員	小林 早苗	民生委員・児童委員
運営委員	佐藤 正子	ボランティア役員
運営委員	鉾田まさの	ボランティア役員
運営委員	鈴木 篤子	ボランティア役員
運営委員	鈴木 彰	高齢者クラブ会長
運営委員	青木 俊之	子ども会連合会会長
運営委員	森田 紹也	元子ども会会長

この人に聞きました

ボランティアみかげ会

会長 佐藤 正子さん



Q みかげ会はいつごろ、どのような経緯でできたのですか。

平成七年ごろ、旧笠間市で、婦人会の代わりにボランティアサークルを各地区で立ち上げようとしたことが始まりと聞いています。

Q 佐藤さんは、いつから入ったのですか。またそのきっかけは何だったのですか。

平成十年からで、子どもの手がかからなくなった時、近所の知人から誘われたのがきっかけです。

Q 現在会員は何人いるのですか。またどういった人が入っているのですか。

二十四名です。希望者はだれでも入れますが、各地区には必ず会員がいるよう勧誘しています。

Q みかげ会ではどんな活動をしていますか。内容を教えてください。

ミニデイサービスの手伝い、市

社協の配食サービス、敬老祝賀会の運営、福祉バザー、パキスタンに送る古布の整理などです。

Q 活動のご苦労は何ですか。

活動のたびに会員さんの手配や協力依頼をするなど、連絡調整が大変です。

Q やってよかったこと、うれしかったことを教えてください。

高齢者の方に、「ありがたう。助かったよ」と言われ喜んでもらえた時がうれしく、やりがいを感じます。

Q 現在の課題は何ですか。

会員も高齢者となり、後継者の入会、育成が課題です。

Q 会長として、今後やってみたいことを教えてください。

二か月に一回ぐらい、会員さんどうし集まって、世間話をしながらコミュニケーションを取れたらいいなと考えています。

Q 地域の方へのメッセージはありますか。

何か困ったことがあったら、遠慮しないで声をかけてほしいと思います。

自営業のご主人、息子さんを助け忙しく毎日を送っている、編み物・ちぎり絵が趣味の佐藤さんでした。

今回、地域福祉活動で活躍されているボランティアサークルみかげ会会長の佐藤正子さんと、民生委員・児童委員の奥村雄治さんにお話を伺いました。

民生委員・児童委員

奥村 雄治さん



Q 民生委員・児童委員になったのはいつからですか。そのきっかけは何ですか。

平成十六年十二月からです。定年退職を機に地域への貢献を考えていたところ、前任者から誘いを受けたのがきっかけです。

Q 受け持ちの区域はどこですか。

九十四区と百十区です。

Q 活動の内容を教えてください。

地域の

方の相談・

見守り・支

援、地域

福祉活動、

要保護児

童の発見・

通告など

が主な活動です。



具体的には、相談や困っていることがあれば、市福祉課や関係部署、市社会福祉協議会につなぎ、問題の解決を図っていきます。

Q 活動のご苦労はありますか。

皆さん協力してくれてありがたいので、特に苦労と思ったことはありません。

Q やってよかったこと、うれしかったことは何ですか。

地域の人や委員どうし、いろいろな職種の人と交流できたことです。

Q 活動上の課題は何ですか。

支援を必要とする人と行政とのパイプ役になるにはどうすればよいか課題です。

また、委員のなり手がなかなか見つからないことも大きな課題です。

Q 今後の抱負を教えてください。

地域福祉のために、微力ながら今後もがんばっていききたいです。

奥村さんは、よさこいソーランやウォーキングを楽しむ奥様との二人暮らし。四人の孫がいて、孫の成長が楽しみと言う。俳句が趣味で、句集も出版。そのほか、菊づくりや盆栽も手がけています。

平成29年度事業報告

月 日	事業名
5月14日	平成29年度総会
6月30日	広報紙第9号発行
7月15日	おしゃべりサロン「楽しい民話の語り」 口演 山口由美先生
7月30日	稲田ふれあい祇園まつり協力
8月 4日	子ども陶芸教室協力
9月18日	稲田地区敬老祝賀会
10月28日	ハイキング（歩く会） 稲田地区
11月 4日	稲田公民館文化祭協力
11月 5日	稲田公民館文化祭協力
11月 9日	稲田公民館芸能発表会協力
11月22日	県外研修会（国会議事堂、皇居）
12月 3日	そば作り教室協力
1月20日	一人暮らし高齢者友愛訪問
1月27日	支部社協活動研究集会
3月10日	広報紙第10号発行
3月17日	学習会「鍋島彦七郎頌徳碑について」 講師 矢口圭二先生

平成30年度事業計画

月	事業名
5月	平成30年度総会
6月	広報紙第11号発行
7月	おしゃべりサロン「高齢者を狙う消費者トラブル」消費生活C職員
7月	稲田ふれあい祇園まつり協力
8月	子ども陶芸教室協力
9月	稲田地区敬老祝賀会
10月	ハイキング（歩く会）
11月	稲田公民館文化祭協力
11月	稲田公民館芸能発表会協力
11月	県外研修会
12月	そば作り教室協力
1月	一人暮らし高齢者友愛訪問
2月	学習会
3月	広報紙第12号発行

平成29年度決算書

1 収入の部 (単位：円)

項目	決算額	備考
1 会費還元金	359,000	市社協より
2 繰越金	228,846	前年度繰越金
3 広報助成金	35,900	会費の5%
4 雑収入	177,003	研修会参加費
合計	800,749	

2 支出の部 (単位：円)

項目	決算額	備考
1 事務費	110,557	
会議費	56,994	役員会、総会
備品費	0	
消耗品費	0	
通信運搬費	8,563	切手代
報償費	15,000	講師謝礼
手当費	30,000	支部長、会計
2 事業費	422,107	
在宅福祉活動費	30,600	高齢者祝品
地域交流事業費	45,820	地域交流事業
広報啓発活動費	86,587	広報紙発行
関係団体助成費	40,000	4団体助成
研修費	218,540	県外研修会
損害保険費	560	ハイキング保険
3 予備費	0	
合計	532,664	

差引残高268,085円は次年度へ繰り越します。

平成30年度予算書

1 収入の部 (単位：円)

項目	決算額	備考
1 会費還元金	350,000	市社協より
2 繰越金	268,085	前年度繰越金
3 広報助成金	35,000	会費の5%
4 雑収入	160,000	研修会参加費
合計	813,085	

2 支出の部 (単位：円)

項目	決算額	備考
1 事務費	160,000	
会議費	40,000	役員会、総会
備品費	20,000	書棚等
消耗品費	15,000	事務用品等
通信運搬費	15,000	葉書・切手代
報償費	30,000	講師謝礼
手当費	40,000	役員手当
2 事業費	635,000	
在宅福祉活動費	40,000	高齢者祝品
地域交流事業費	100,000	地域交流事業
広報啓発活動費	120,000	広報紙発行
公民館活動支援費	100,000	公民館支援
関係団体助成費	30,000	子ども会、他
研修費	230,000	県外研修会
損害保険費	15,000	損害保険料
3 予備費	18,085	
合計	813,085	